



ThemisStruct
テミストラクト

Cloud Days TOKYO
2017

クラウド、Web APIの活用と アイデンティティによるアクセス管理

株式会社オージス総研
サービス事業本部 テミストラクトソリューション部

八幡 孝



八幡 孝（やはた たかし）

- 株式会社オージス総研
- テミストラクト関連サービス 東日本エリア責任者
- テミストラクト商品開発 リードアーキテクト
- OpenAMコンソーシアム 理事
- OpenIDファウンデーション・ジャパン
Enterprise Identity WG リーダー
- twitter.com/paoneJP
- facebook.com/takashi.yahata
- <https://paonejp.github.io>
- OpenID, OAuth, SCIM, Python, OpenAM, OpenIDM, ...



統合認証ソリューション ThemisStruct を提供しています



ThemisStruct-WAM

シングルサインオン
認証基盤ソリューション

ThemisStruct-IDM

ID管理ソリューション

ThemisStruct-CM

電子証明書発行・管理
ソリューション

ワンタイムパスワードソリューション

ThemisStruct-OTP

システム監視ソリューション

ThemisStruct-MONITOR

 デモストラクト ThemisStruct
Identity Platform AWS
対応版

クラウド、IoT時代の
“All in one”
認証プラットフォーム

統合認証ソリューションに取り組んで15年

- 2001年ごろから基盤部門で
- セキュリティソリューションの一環として
- 2005年からはオープンソースソフトウェアをベースに開発をし
- 2009年からThemiStructブランドを立ち上げて
- 2013年からは専門部隊として
- 気がつけば昨年（2016年）は15周年 Year でした

なぜ認証基盤を作るのか？

認証基盤を作るメリット

① 利用者が便利になる

- 作業効率の向上
- IT活用の促進

② セキュリティレベルのばらつきがなくなる

- 開発者に依存したばらつき
- ユーザーに依存したばらつき

③ システム開発がしやすい

- アプリ毎の認証機能開発は不要
- サブシステムに分割した開発の実現

④ 認証方式の変更がやりやすい

- ID/パスワードを使った認証
- 多要素認証への対応
- 新しい方式への対応

セキュリティのための認証基盤

認証基盤のユースケースが拡大

| ユースケース | 狙い・特長 |
|-------------------------------|--|
| 社内システム利用のガバナンス強化 | 認証処理の一元化、人事システム等と連動したタイムリーなIDメンテナンス。 |
| 取引先へのシステム提供 | 取引先ユーザーの確実な認証。IPアドレスや電子証明書の併用。 |
| クラウドサービス利用時、スマホ・タブレット利用時の認証強化 | 社外からの利用の制限。社外での利用時の追加の認証の実施。社用端末の識別。クラウドサービスのIDメンテナンス。 |
| 顧客（一般消費者）向けの情報提供、サービス提供 | SSOによる顧客への利便性の提供。複数アプリへの展開。収集した属性の活用。他社サービスとの連携。 |

「ビジネスのデジタル変容」が拍車をかける

モバイル、クラウド、
ソーシャルの活用

ビジネスプロセス
の自動連携

ユーザー情報の
活用と分析

多様なデバイスの
連携、活用

- ユーザー毎に最適化されたサービスの提供
- 業務効率の向上、提供スピードの向上

セキュリティのための認証基盤

□ 情報セキュリティの3要素 (CIA)

- 機密性: Confidentiality
- 完全性: Integrity
- 可用性: Availability → 本当は最も優先されるべき要素



利用を制限するための認証基盤



クラウド、デバイス、サービスを活用してもらうための認証基盤

“Identity is the new perimeter.”

□ ネットワーク型の境界防御が効かない時代になった

- 守るべき情報資産は壁 (Firewall) の外にある
- アクセスする主体は壁の中にも外にもいる

□ アイデンティティを用いた情報へのアクセス管理が重要に

- アイデンティティによるアクセスの制御
- アイデンティティによるアクセスの監視

アイデンティティ？

エンティティ（実体）

認証

アイデンティティ

コンテキスト

- ・属性の集合
- ・コンテキスト毎に複数



ひとりの人

アクセスする実体を
システムが認識している
アイデンティティと
紐付けること＝認証

社員番号: 1234567890
名前: 八幡 孝
所属コード: 7777
...

名前: 八幡 孝
所属: オージス総研
担当セッション: AAA
...

...

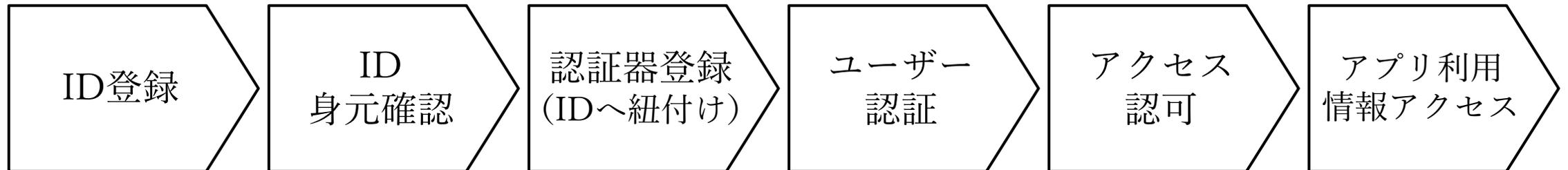
オージス総研
の社員として

講演者として

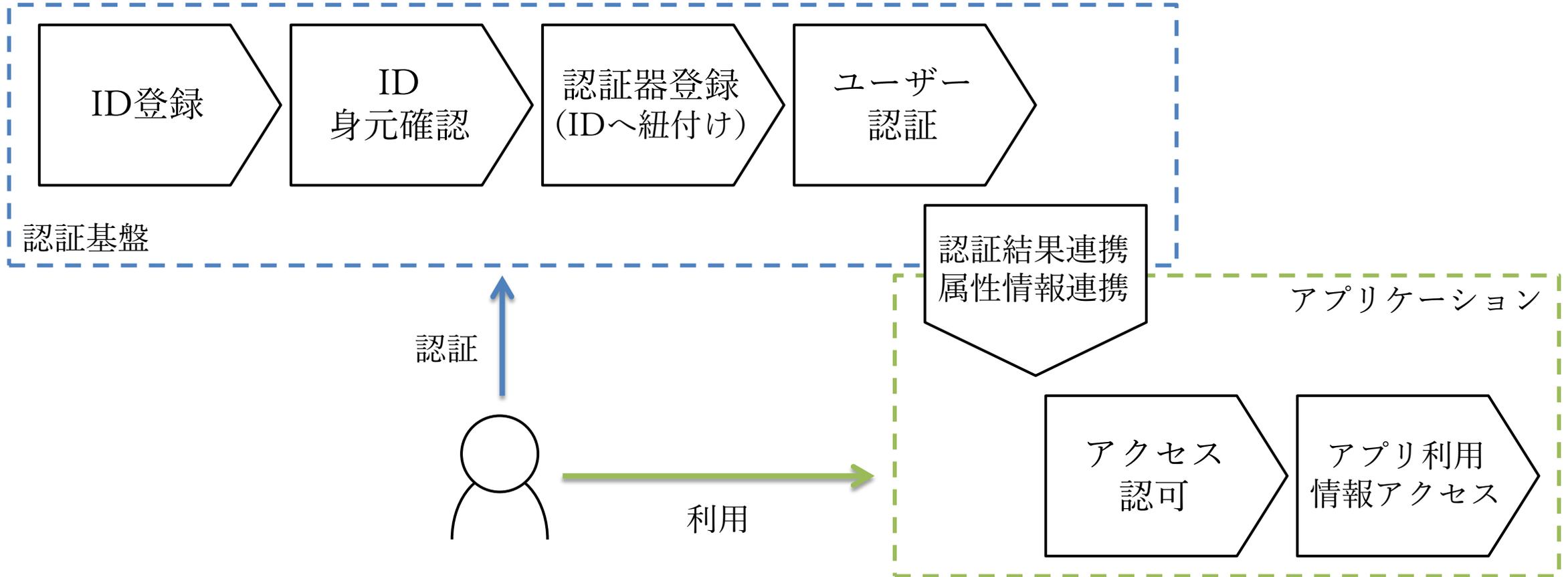
家族からみた

⋮

アイデンティティ & アクセス管理のフロー



アイデンティティ & アクセス管理のフロー



アプリケーションは何の情報を必要としているか？

□ ① ユーザーの認証状態の確認

- 識別子、認証方法、認証時刻、...

□ ② ユーザーが誰であるかの把握

- 名前、所属、役職、メール、...
- 名前、住所、電話、メール、...
- その人向けのサービス・機能を提供

□ ③ ユーザーの権限の判定

- 社員番号、組織番号、権限番号、...
- 契約中のサービスコード、
- その人がやれることを正確に確認

□ ④ 関連する情報の参照と利用

- 他ユーザーの属性、組織の属性、...

□ ⑤ データ処理のためのマスターデータとしての利用

- 社員マスタ、組織マスタ、権限マスタ、...

アプリケーションに必要な情報を提供する方法

① ユーザーの認証状態の確認

② ユーザーが誰であるかの把握

③ ユーザーの権限の判定

④ 関連する情報の参照と利用

⑤ データ処理のための
マスターデータとしての利用

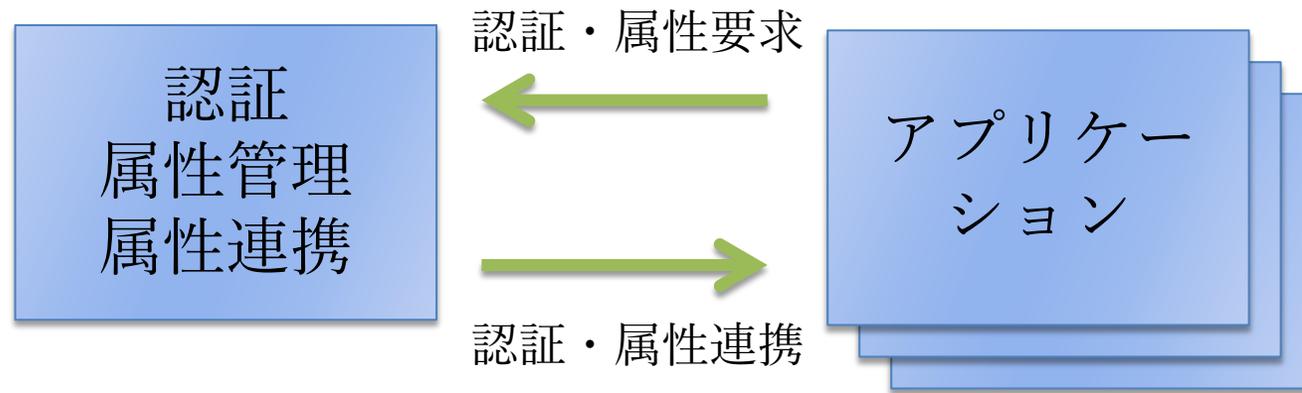
アイデンティティ
連携の技術が必要

認証連携

属性連携

定期プロビジョニング or
マスターリポジトリの参照

認証基盤を作る・サービスを展開する



ユーザーの認証
アプリが必要とする
属性の管理、提供、記録

ユーザーごとに
最適化された
サービスを提供

外部IdP活用で、より使いやすく、より管理しやすく



外部の信頼できる
認証システム(IdP)を利用

ドメインログオン、
Google, Facebook, ...

アプリが必要とする
属性の管理、提供、記録

ユーザーごとに
最適化された
サービスを提供

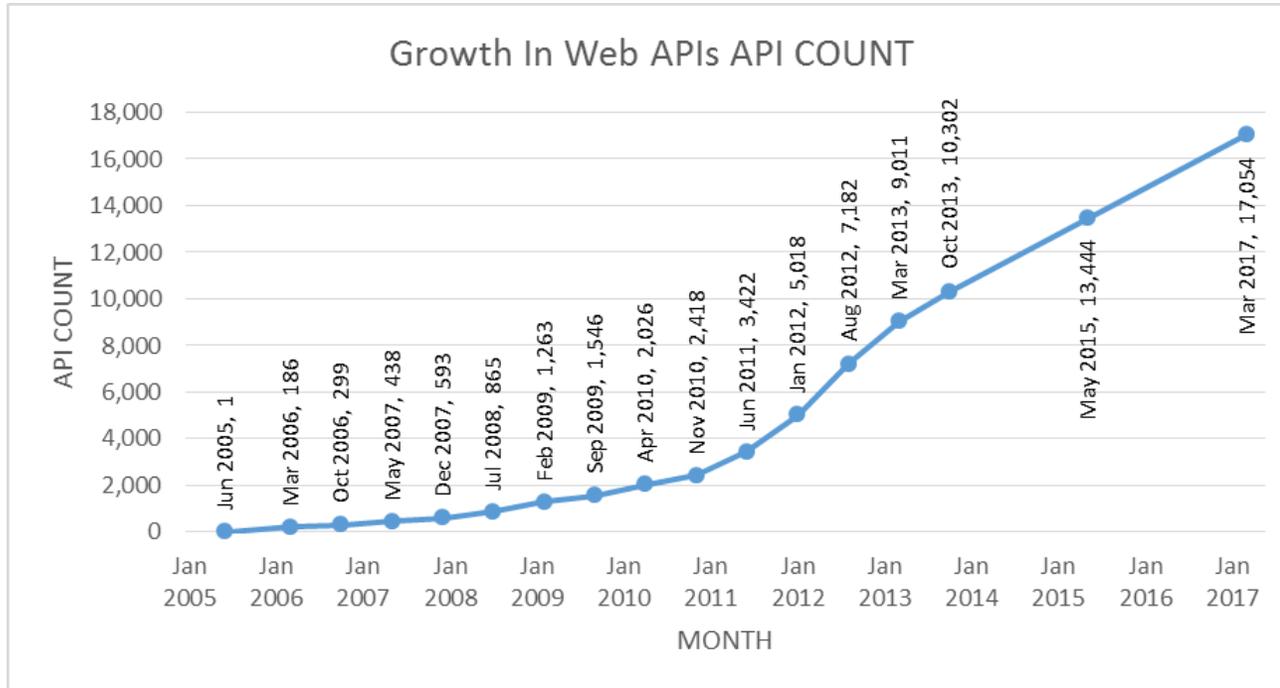
**認証基盤にとどまらず
アイデンティティプラットフォームが
必要になっている**

Web API のアクセス管理への展開

Web API の利用が広がっている

増加を続ける Web API（公開型）

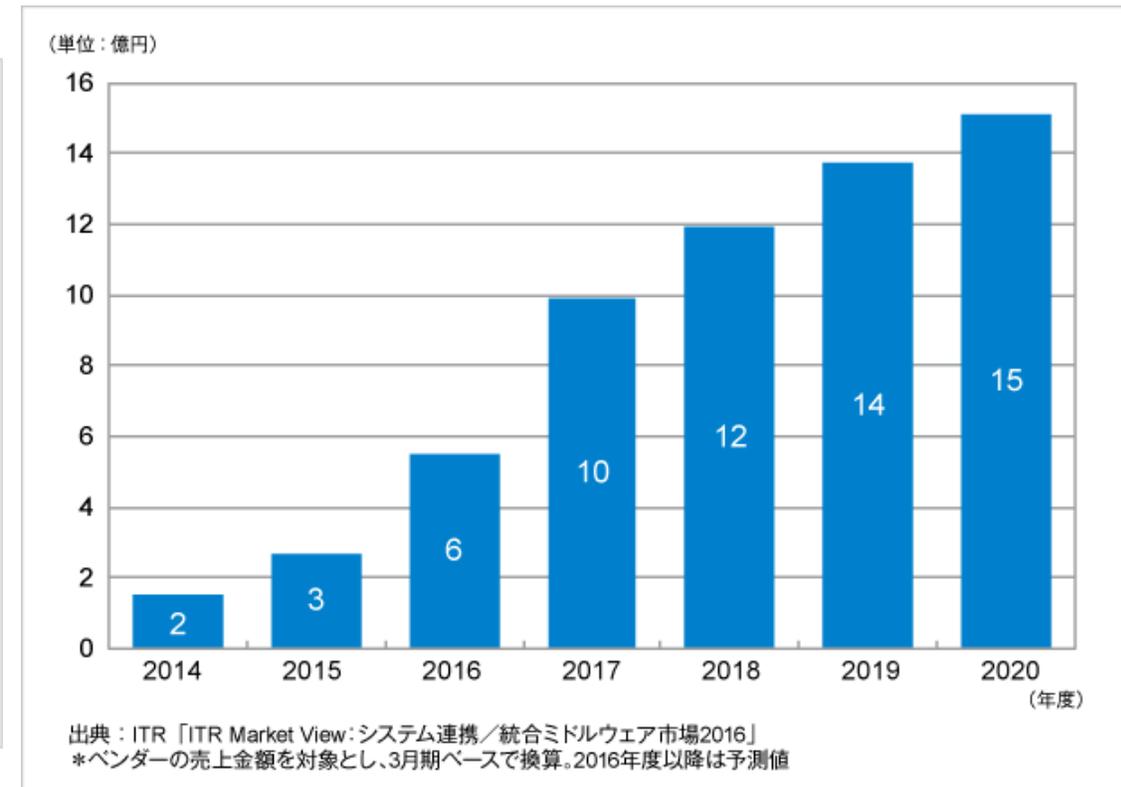
ProgrammableWebの情報を基に当社で加筆・グラフ化



引用元: <https://www.programmableweb.com/api-research>

「API管理市場売上金額推移および予測」

ITR社プレスリリースより



引用元: <https://www.itr.co.jp/company/press/161213PR.html>

Web API はデジタルビジネスの中核技術とされている

“ デジタルイノベーションやデジタルトランスフォーメーションを実現するコア技術のひとつとして導入が進む ”

ITR社「**ITRがAPI管理市場規模推移および予測を発表**」より

引用元: <https://www.itr.co.jp/company/press/161213PR.html>

“ まさしく、ハイブリッドクラウド環境におけるAPIエコノミーが、DXを実現しているのである。 ”

IDC Japan社「**～ デジタルトランスフォーメーション・エコノミーの萌芽 ～
2017年 国内IT市場の主要10項目を発表**」より

引用元: <http://www.idcjapan.co.jp/Press/Current/20161213Apr.html>

Web API をどう保護するか？

□ Web API 利活用が広がる

- 内部での Web API 技術の利用
- 外部の Web API の活用
 - Closed Network での提供
 - Open Network での提供
- 外部への Web API の公開

□ ネットワーク型の境界防御だけでは保護できない

Web API でもアイデンティティを用いたアクセス管理が必要

Web API アクセス管理を考える切り口

□ クライアント（Web APIへのアクセス元）の認証

- ネットワーク、電子証明書、ベーシック認証、APIキー、...

OAuth の Client Authentication

□ 適切なアクセス権限の提供

- アクセスできる情報の範囲、行なえる操作の内容

OAuth の SCOPE へマッピング

□ 情報の所有者によるアクセスの許可

OAuth による認可（と OpenID Connect による認証）

外部の Web API を活用するには？

□ Web API でアクセスするリソースが企業に帰属するなら

- クライアント認証をしてアクセス

□ 個人（従業員など）に帰属するなら

- 企業がアクセスを許可すればよい場合

- クライアント認証をしてアクセス

- 個人がアクセスを許可すべきものの場合

- OAuthによる認可、個人の認証への対応が必要

- 個人の認証は、自社の認証基盤からのSSOに対応することも検討

外部へ Web API を公開するには？

- Web API で提供するリソースが誰に帰属するかを分析する
- リソース毎に付与する権限を整理する
- リソース x 権限 を SCOPE にマッピングする
- OAuth による認可を実装する
- ユーザーを認証する機能を実装する
- ユーザーが使用している認証基盤とのSSOに対応する

アイデンティティ技術の標準化動向

アイデンティティ連携を実現する標準技術たち

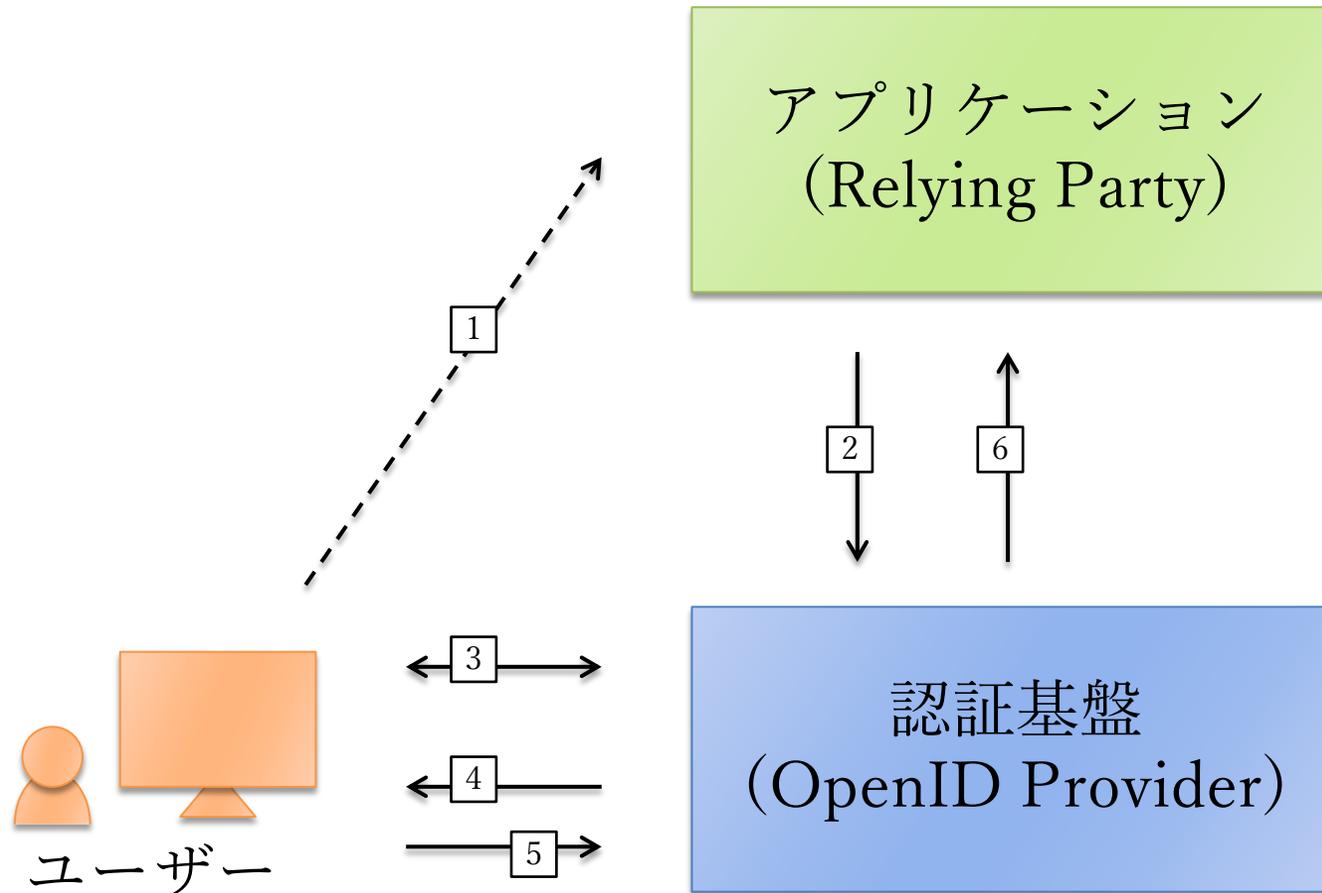


これらの技術は標準化が進み、製品・サービスへの実装も浸透している。

アイデンティティ連携を実現する標準技術たち

| 標準技術 | 概要 |
|----------------|--|
| OpenID Connect | 認証されたユーザーの情報（認証状態）を、サイト間、アプリケーション間で安全に伝達する仕組み。 |
| SCIM | ユーザーに関する各種属性情報へのアクセス・操作をする仕組み。（属性情報の閲覧、検索、登録、更新、削除など） |
| OAuth | ユーザーの情報への特定のアクセス・操作を、情報を所有するユーザーの同意に基づき、アプリケーションに対して許可する仕組み。 |

OpenID Connect を使った認証連携 (SSO)

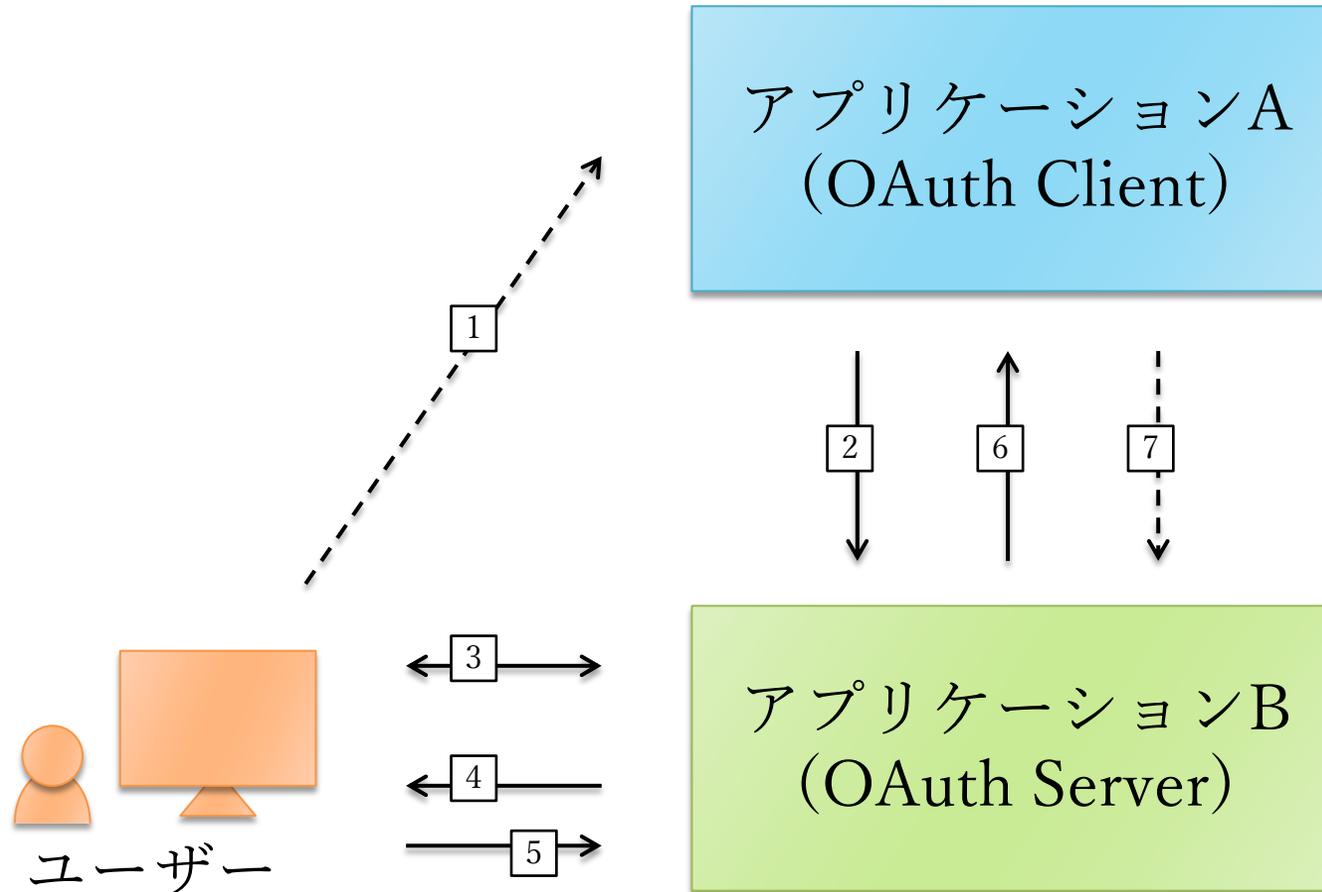


1. ユーザーがアプリケーションにアクセス
2. このユーザーは誰？
3. ユーザーを認証
4. このアプリにログインしようとしているけど良い？ユーザー名とメールアドレスを求めているけど渡しても良い？
5. いいよ
6. このユーザーは、〇〇さん。メールアドレスは△△。最後に認証したのはこの時刻。認証方法は□□。

ユーザー属性の連携は OpenID Connect UserInfo End Point による方法のほか、SCIM を併用した方法も採れる。

※ 概念を図示するため、実際のリクエスト・レスポンスの方法、回数等を簡略化しています。

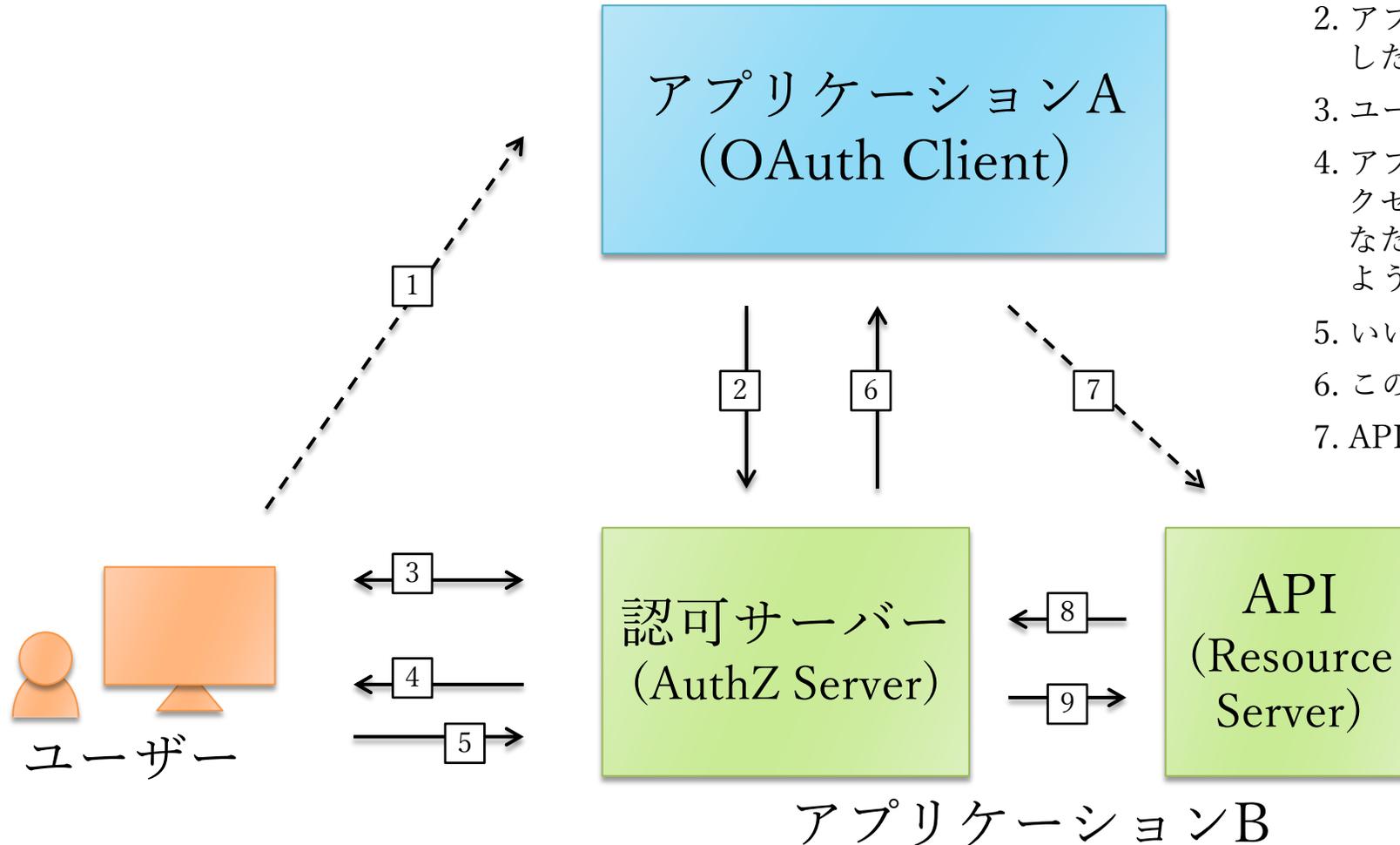
OAuthを使ったアプリケーション間API連携の許可 ①



1. ユーザーがアプリAにアクセス
2. アプリBのユーザー情報のAPIにアクセスしたい
3. ユーザーを認証
4. アプリAが、アプリBのあなたの情報にアクセスしようとしているけどいい？（あなたの代わりにアプリBでこんな操作しようとしているけどいい？）
5. いいよ
6. このトークンでAPIにアクセスして
7. APIにアクセス

※ 概念を図示するため、実際のリクエスト・レスポンスの方法、回数等を簡略化しています。

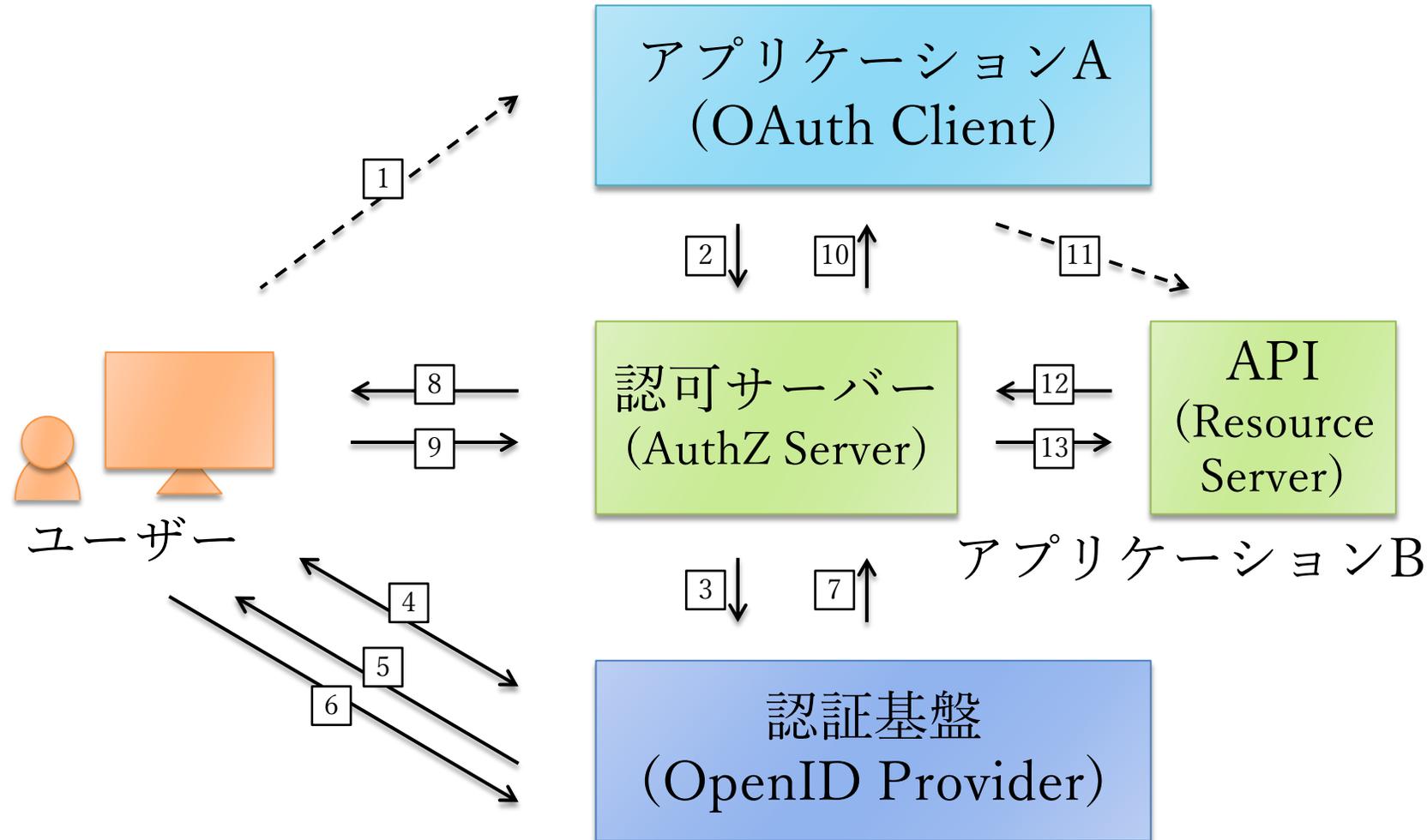
OAuthを使ったアプリケーション間API連携の許可 ②



1. ユーザーがアプリAにアクセス
2. アプリBのユーザー情報のAPIにアクセスしたい
3. ユーザーを認証
4. アプリAが、アプリBのあなたの情報にアクセスしようとしているけどいい？（あなたの代わりにアプリBでこんな操作しようとしているけどいい？）
5. いいよ
6. このトークンでAPIにアクセスして
7. APIにアクセス
8. このトークンは何を許可したものの？
9. ○○さんが、アプリAがアプリBで△△することを許可したものの。

※ 概念を図示するため、実際のリクエスト・レスポンスの方法、回数等を簡略化しています。

認証基盤と連動したAPI連携の認可



1. アプリAにアクセス
2. APIへのアクセス許可を要求
3. ユーザーの認証を要求
- 4.~7. 認証結果を連携
- 8.~10. アクセストークンを応答
11. APIへアクセス
- 12.~13. アクセストークンを確認してAPIを実行

※ 概念を図示するため、実際のリクエスト・レスポンスの方法、回数等を簡略化しています。

ThemiStruct ソリューション での対応

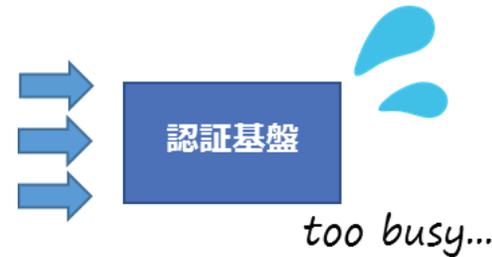
認証基盤 から アイデンティティプラットフォームへ

**広がるユースケース
増えるアクセス
高まる重要性**

おのずと「非機能要求」のレベルもアップ

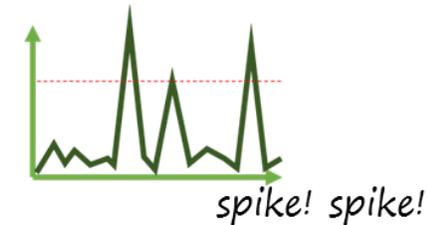
膨大なトラフィック

- 認証基盤の役割増加
- 提供するサービス・システムの増加
- ユーザー数・デバイス数の増加
- API利用の増加



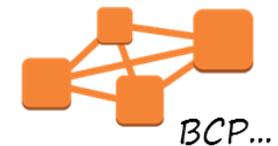
スパイクアクセス

- キャンペーンやニュースサイト掲載などにより定常的なアクセスと比較し、予想不可な大量のアクセスが発生する



システム停止を回避

- 認証基盤役割の増加に伴い、システム停止や遅延による機会損失が大きくなり、事業継続性や機会損失回避など可用性要求のレベルが格段にUPした



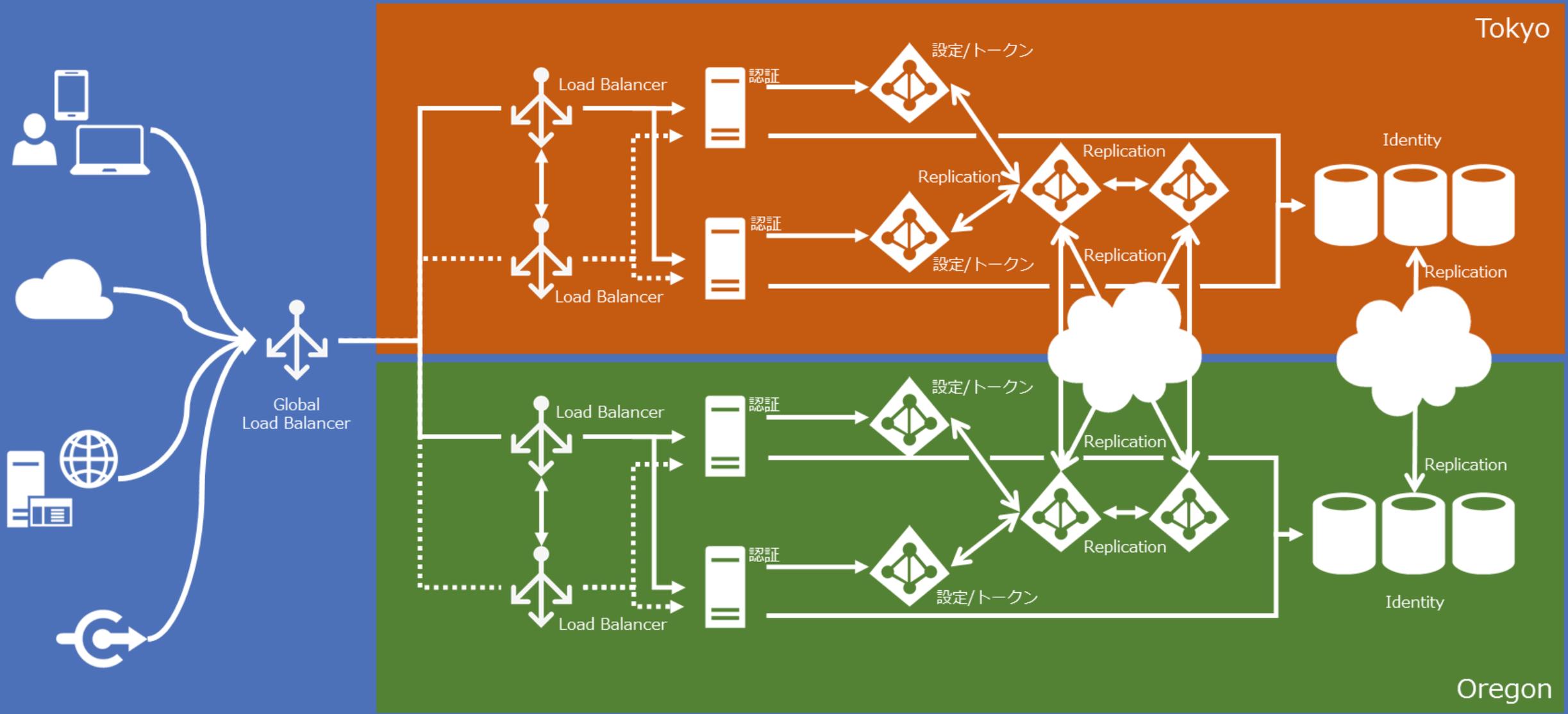
スピードスタート・スモールスタート

- 短期間でビジネスをスタートさせたり、事業規模に応じてスタート、柔軟にスケールできる必要がある



very tight.

これまで：高度な基盤設計。入念な可用性、性能のテスト。プロジェクトの巨大化。



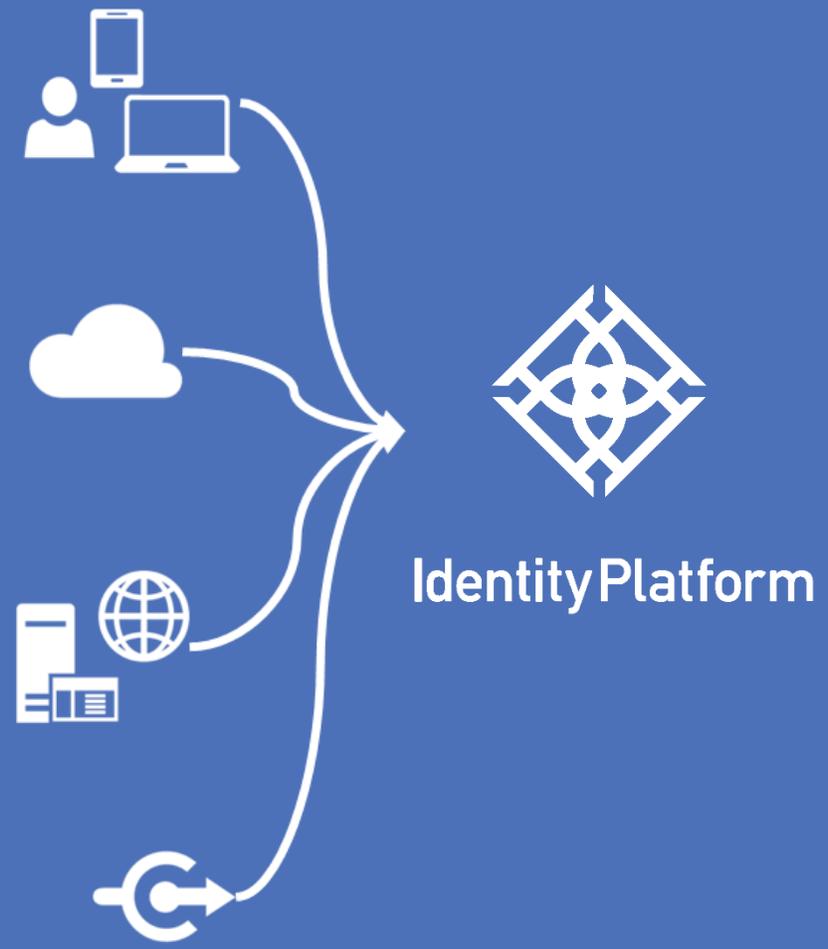
当社のアプローチ



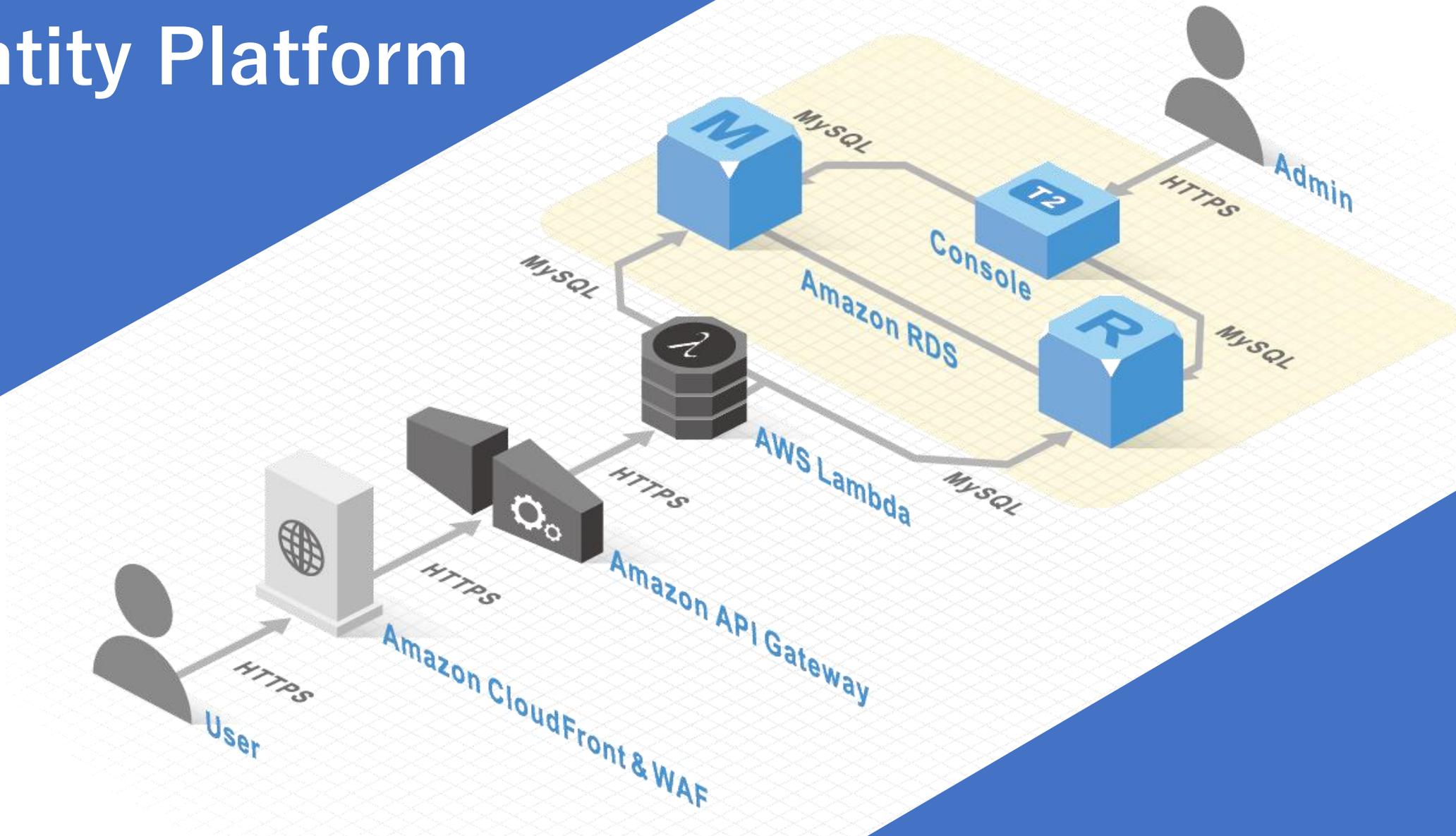
- ✓ AWSのPaaS上で動く
アイデンティティ連携基盤
- ✓ ≠ OpenAM、OpenIDM
- ✓ ≠ IDaaS
- ✓ オージス総研自社商品



これから： 基盤の設計、テストは不要。プロジェクトの迅速なスタートアップ。



ThemiStruct Identity Platform



OpenID Certified になりました。



オージス総研の Themistruct Identity Platform は OpenID Connect™ プロトコルの OP Basic, OP Implicit, OP Config の3つのプロファイルに適合した OpenID Certified™ 実装です。

<http://openid.net/certification/>

 ThemisStruct デミストラクト
Identity Platform AWS
対応版

**ブース No.2411 に展示しています。
ぜひお立ち寄りください。**

そして...

ビジネスの「デジタル変容」が必要な時代
認証基盤エンジニアは「Identity Professional」への
変容が求められています

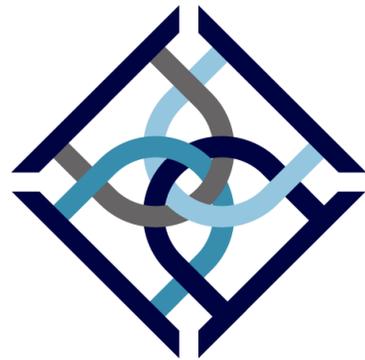
**オージス総研では
Identity Professional の育成の
取り組みを始めています**

まとめ

まとめ

- 認証基盤のユースケースが広がってきた。デジタルビジネスに対応できる認証基盤構築のニーズが高まる。
- 認証だけではなく、利用者のアイデンティティを管理、提供するプラットフォームが必要となる。
- アイデンティティ連携技術の標準化、製品・サービスへの実装は急速に進行中。標準に適合して、相互接続性を高める。
- ThemisStructソリューションは ThemisStruct Identity Platform をラインアップに加え、皆さまのビジネスをサポート。

ご清聴ありがとうございました



ThemisStruct
テミストラクト

【お問い合わせ先】

株式会社オージス総研

TEL: 03-6712-1201 / 06-6871-7998

mail: info@ogis-ri.co.jp



参考資料

統合認証ソリューション ThemisStruct



ThemisStruct-WAM

シングルサインオン
認証基盤ソリューション

ThemisStruct-IDM

ID管理ソリューション

ThemisStruct-CM

電子証明書発行・管理
ソリューション

ワンタイムパスワードソリューション

ThemisStruct-OTP

システム監視ソリューション

ThemisStruct-MONITOR

 ThemisStruct デモストラクト
Identity Platform AWS
対応版

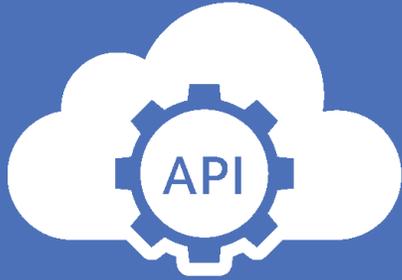
クラウド、IoT時代の
“All in one”
認証プラットフォーム

ThemiStruct Identity Platform

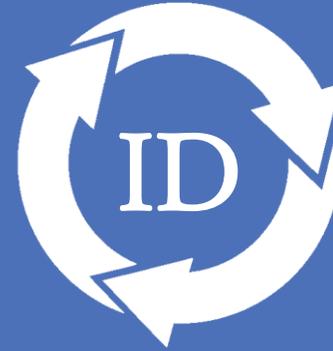


- ✓ AWSのPaaS上で動く
アイデンティティ連携基盤
- ✓ ≠ OpenAM、OpenIDM
- ✓ ≠ IDaaS
- ✓ オージス総研自社商品

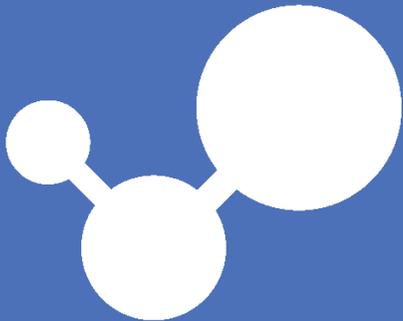




**あなたの Identity Platform が
すぐ構築可能**



アイデンティティ連携

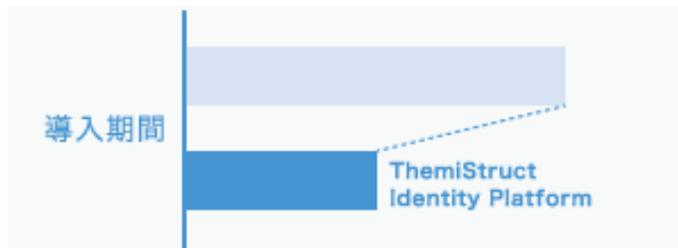


**事業成長や突発的アクセスに
合わせたスケーリング**



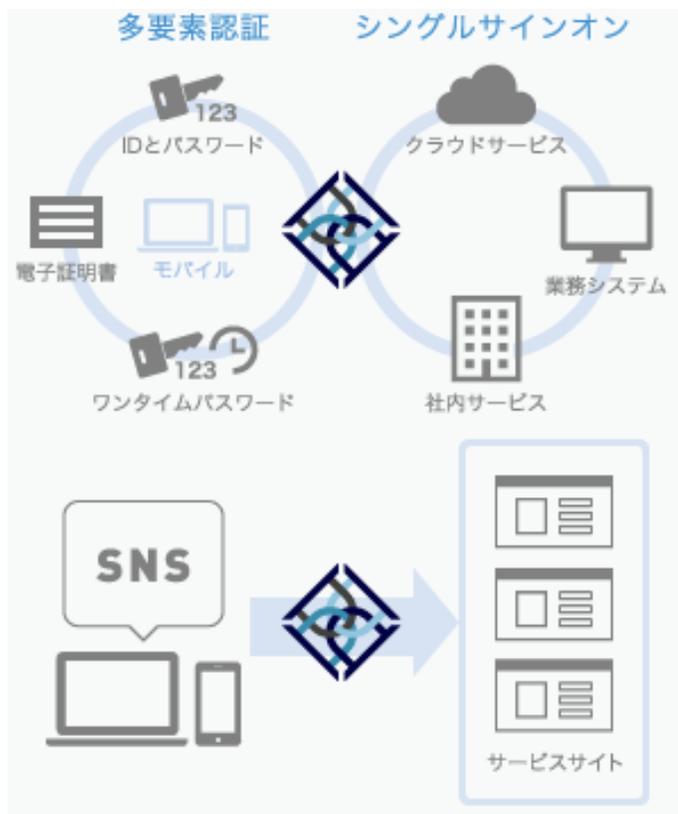
アクセスセキュリティ強化

ThemiStruct Identity Platform の特徴 (1)



認証システムの短期導入が可能

ThemiStruct Identity Platform はクラウド上に設置され、短期間で従業員、カスタマー、ビジネスパートナーに認証サービスを提供できます。また、APIを利用し既設サイトへの組み込みも容易です。



ログインを1回に、認証方法も組合せ自由

ThemiStruct Identity Platform に一度ログインを行うことで、ユーザーが利用したい各サイトへシングルサインオンすることができます。その際のログインではIDとパスワードによる認証だけでなく、ワンタイムパスワード・電子証明書、指紋・指静脈情報やインベントリー認証などを利用することができます。また利用システムごとの設定により、各サイトやコンテンツのセキュリティ、ユーザビリティ要件に応じた認証を行うことができます。

ユーザー登録のハードルを下げ、新規ユーザー登録率をアップ

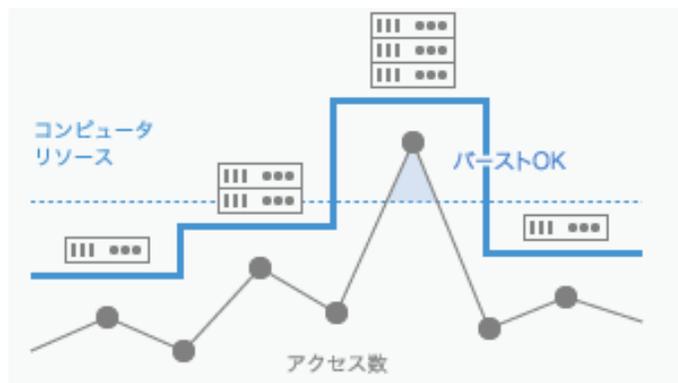
FacebookやGoogleなどのユーザーが普段使っているSNSやWebサービスのアカウントを利用して、気軽にユーザー登録が可能です。サイトへの新規ユーザー登録率、ユーザビリティ、コンバージョン率を向上させます。ユーザー自身による登録や、管理者による一括登録も可能です。

ThemiStruct Identity Platform の特徴 (2)



各システムへ必要なときに、必要な情報を連携できます

ThemiStruct Identity Platform から各システムへ必要なタイミングで、必要なユーザー情報を連携することができます。各システムでユーザー情報の管理が不要になります。



事業成長に合わせたスケーリング、突発的アクセス集中への対応

サーバレスアーキテクチャにより、事業環境の変化や突発的アクセス集中に合わせて、自由にかつ自動でコンピュータリソースの拡張・縮小を行えます。